

子育て文教常任委員会の委員間討議

- ・ 日 時：令和 7 年（2025 年） 2 月 17 日
- ・ 場 所：第 2 委員会室
- ・ 出席者：高花えいこ委員長
江川あや副委員長
横山啓一委員 笠井まなみ委員 中村みなこ委員
駒木おさみ委員 品田ときえ委員 佐藤さだお委員 以上 8 名

議事録

1 地域の子どもたちの状況と支援策

- ・ 駅南の子どもたちの状況と中高生の居場所づくり

中高生が自由に集まれる居場所を提供することの重要性が議論された。

駅南などの場所が集まりの場となっている現状が指摘された。駅南に集まる子どもたちの状況について議論があり、警察が支援に動いている実態が確認されたことから市が関与するものではないとの意見があった。実際に市の青少年係が定期的に動いていることから、今後は手厚く予算を付けて予防策の支援が必要との発言もあった。警察や学校関係者からの情報を集め、現状を確認し把握するための場を常任委員会に設ける提案がなされた。

2 子どもたちの居場所と支援の改善

- ・ 子どもたちの居場所と支援

旭川市には子どもたちの居場所が不足しているという問題が議論され、本当に居場所が足りないのか、学校外のところでどんな問題が起きているのかなど実態調査の必要性が指摘された。市民団体や警察、学校関係者との連携も重要視された。

- ・ 情報格差と教育格差

情報格差や経済格差が教育格差につながるという意見が出され、特に、ヤングケアラーや不登校の問題が取り上げられた。ふだんの生活で大多数の子どもたちが関わる場所の議論があまりされていないとの指摘もあった。時代背景の影響があること、女性活躍といっても子どもが相談できるのは家庭の中であり母親業にフォーカスし、子どもと向き合う時間に余裕が生まれるような行政からの手助けがあれば良いとの意見もあった。

- **子ども総合相談センターの役割**

意見交換会において子ども総合相談センターが何もしてくれないという意見があり、機能が十分に果たされているかどうかが議論され、改善の必要性が示唆された。

- **児童センターの不足と役割**

同じく意見交換会で旭川市には児童センターが不足しているとの声があり、札幌市のユースプラスの視察結果を参考に、人と予算と場所の環境を整える重要性和、児童センターがない地域もあることこそが格差であるとの意見もあった。民間団体との連携についても提案された。このような視点が必要であったことや、児童センターの数を増やし、子どもたちが自由に出入りできる空間を提供することの重要性が議論された。

3 地域の施設を活用した異世代間交流と子どもたちの居場所づくり

- **異世代間交流の場の活用**

札幌市のユースプラスのように異世代間のコミュニケーションを促進するために、既存の施設やフリースペースをどのように活用するかについて議論された。特に、中学生や高校生が放課後に利用できるスペースの重要性が指摘された。そのために子どもたちの声を聞かなくてはならないことも指摘され、事実、意見交換会には現役の高校生が参加されていて、もっと意見を聞いてほしいとアプローチがあった。

- **市の施設の無償利用**

無償化が全部良いとは言わないが、住民センターや地区センターなど市の施設を無償で利用できるようにすることで、世代間交流を促進し、子どもたちや地域住民の活動を支援することができるのではないかと提案があった。

- **公民館の活用**

公民館を中高生等の子どもたちには無料開放し、地域の教育や交流の場として活用してもよいのではないかと提案があった。特に、不登校対策としての利用が議論された。

4 子どもに対するサービス及び福祉と地域の情報共有

- **子どもに対するサービスと福祉**

子どもに対するサービスや福祉の在り方について議論された。特に、子どもが自由に受け入れられる場所の必要性や、家庭間の経済格差や情報格差が子どもに与える影響について話し合われた。困っている子どもたちに耳を傾けて寄り添う大人にならなければならないとの指摘があった。

- ・ **地域の情報共有と市民の役割**

地域の問題や実態を共有する必要性について議論された。特に、学校や警察との連携を通じて地域の状況を把握し、市民全体で情報を共有することの重要性が指摘された。

まとめ

日頃の各委員の活動や経験から様々な提案と指摘があり、どれも貴重な意見ばかりであったことから、多岐にわたって議論ができたことは今後の市の施策に生かしていきたいと強く思うところである。

子育て文教常任委員会としては、今回、委員間討議を経たことにより、今後も幅広い視野をもって、充実した子育て支援になるよう鋭意努力してまいりたい。